

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100094		
法人名	有限会社 望仙樓		
事業所名	グループホーム さくらの杜 【たちばな通り】		
所在地	岐阜県多治見市上町4丁目46の7		
自己評価作成日	平成26年10月15日	評価結果市町村受理日	平成27年 3月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosvCd=2191100094-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成26年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が、落ち着いて生活がして行けるよう、一日の中で何か満足感が感じていただけるよう、ご利用者お一人お一人の「その人らしく」を支援していけるケアの充実に努めることができました。又、地域密着施設であることを意識し、近隣の高齢者や住民の方に、親しみをもって頂ける施設を目指し、お茶のみ所や、趣味の発表の場、交流の場、相談できる場として、気軽にお立ち寄りいただき、気楽にお過ごしいただける様に努めています。また、隣接した小規模多機能型居宅介護施設のご利用者とも交流を持つことで、在宅で生活されてみえる方の生活や、情報をご自分たちの事のように楽しんで見えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

法人代表の地元である当地にホームを開設し、隣接する同法人の小規模多機能型居宅介護施設と相互に交流している。両事業所の多くの利用者も地元で暮らしてきた住人である。事業所の地続きにある神明神社の祭礼は、利用者の暮らした地域の知人も多く参拝する共通の馴染みの場所である。この地の利を活かし、職員はホームの理念である「その人らしく」、「地域で愛されるホームを目指す」を合言葉に、利用者、家族、地域の関わりを大切に日々取り組んでいる。地域の複数のボランティアが年間を通じて頻回に訪れている。毎月開催する編み物や大正琴の教室は、地域住人やボランティアのメンバーも利用者も参加し、サロンのように普段着のつきあいを楽しんでいる。ホーム主催のコンサートや手品、楽器演奏、食事会にも地域住民が気軽に参加している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や、運営方針を作り、毎朝唱和し、スタッフ全員で共有し意識の定着を図り、実践につながるよう努力を続けている。毎月フロア毎に目標を作り、こちらも運営理念・方針とともに毎朝唱和し、月の終わりには評価し、翌月の目標の作成につなげている。	理念である「その人らしく」、「地域で愛されるホーム」は、職員の心をつなげてホーム(利用者)と地域の関わる機会を積極的に設け、実践に反映するよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ出来る範囲で、ご利用者と参加をし、又ホームで行う行事へ、ご参加の声をかけを行い、多くの方にホームへ足を運んで頂く機会と、地域の方と接する場を設ける努力をしている。	地域の高校から生徒が毎月のように訪れ、生徒の企画した催しを利用者と楽しんでい。地域の踊り、傾聴、楽器演奏などのボランティアも多く、活動以外の日もホームに遊びにきている。地域からは野菜も届く。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームのイベント行事に地域の方に参加して頂き、ご利用者へのかかわり方や対応の方法等、実際に見て頂くことで、認知症を理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催が、一時空いてしまったが、現在は、地域の方のご協力で再び再開している。ただ今年度は、ご利用者さまの体調の変化がいちじるしい年であったため、防災訓練が前回のように、行われていない。そのため、11月は秋の火災予防の月のため、この月に夜間想定防災訓練を昨年のように行う予定。	家族、複数の地域からの参加者、行政と参加者は多い。利用者の様子、外部評価の公表などオープンに報告を行い、意見交換している。時にはホームの消防訓練を同時開催とし、利用者とお茶会交流の機会を設けて参加者の意見を収集している。	参加者がホームの状況を理解し意見を交わすためには2ヶ月ごとのペースの開催が適当である。開催に向け一考願いたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を取っており、認知症でお困りになっている方等の相談支援をしながら、協力関係を築いている。 去年度から市の主催で、地域密着型サービスの事業所意見交換会が実施されている。そこへの参加。と、今年度は、多治見市地域包括センター運営協議会委員及び多治見市地域密着型サービス運営委員会委員をさせていただくことになったため、幅広い見識者の方の意見をうかがう機会が増えた。	運営推進会議は家族や地域の参加を考えて主に休日開催とし、市・担当者の参加を得て有益な情報提供や意見を発する機会としている。市の主催する地域密着型の同業者の意見交換会に参加し、共に地域を支えるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内が、回廊として活動できる環境があり、利用者は自由に散歩や、徘徊ができるので、特に玄関の施錠なく、生活して頂ける。	マニュアルを作成してホーム内の研修を実施している。出入り口の施錠はなく、職員の見守りに努めている。利用者の強い離脱の意向のある場合は、利用者が納得するまで職員が同行して外出している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料等にいつでも目を通せるように、スタッフルームに準備してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の学習会に参加させていただく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、ご家族の心配や悩み、不安等の対応に心掛けて、理解を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会の開催や面会時に、お話をさせて頂いたり、玄関に意見箱を設置しご意見を聞かせて頂ける環境を整えている。	家族会は家族会代表を立てて家族主導の意見交換を行ない、忌憚のない意見を表している。家族会の意見を真摯に受け止め実践に反映している。家族アンケートでは、回答した全家族がホームのサービスに高い評価を示している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議や全体会にて、意見交換を行い、又、カンファレンス開催時の意見等にも留意している。	毎月職員会議と各ユニットの会議を実施し、職員の意見を表す機会を設けている。長く働く職員が多く、良好なチームワークを築いて遠慮なく意見を交わしている。必要な場合は法人代表の個人面談を実施し、個別に意見を確認している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年は、サンクスカードの徹底、ユニット対抗への評価の徹底が難しいとあった、形だけの評価は、達成の重要度が薄れ、一部の式の低下につながってしまった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットリーダーに、指示権限と責任を持たせ、リーダーとしての学習会を行い、その他の職員には、ホーム内外での研修や講習の場に参加する機会を設け学習し、介護の質を高めるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多治見市社会福祉協議会主催のたじみネットワーク会議の参加や、多治見市高齢福祉課主催の地域密着型サービス会議に参加させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	100の気づきシートから、その方の全てに気づくことで、ご本人の不安や訴えに耳を傾け、寄り添うことで、安心できる環境関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、アセスメントを取り、困っていることや要望などお聞きするようにし、コミュニケーションを図り、入居直後は、日中の様子や睡眠時間等をご家族にお電話し、安心して頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態、生活歴、病歴を中心にしっかりとアセスメントし、初期の支援内容に生かすようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が出来ることを引き出し、見極め、共同生活の場として、一緒に活動をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も一緒に支え合う一員、仲間として、協力し合いながら、日々の支援を行っている。毎月のお便りでご本人のご様子をお伝えし、常に一緒に支えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ながらのご友人が訪ねてきたり、市民文化祭に参加したり、寄合などあれば出来る限り、ご参加して頂けるようにしている。	地域に根ざして開設したホームは、法人の隣接する2つの事業所の利用者同士が知人として交流している。法人の主催する編み物、大正琴の教室に地域の住人も参加しており、利用者と楽しく交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯、掃除、調理など、日々の活動の中や、レクをとおして、関係性を把握し、協力し合いながら、良好なコミュニケーションを図れる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	元気になられ退居された方も、ホーム行事に足を運んで頂き、参加して頂く等、関係性を継続している。又その後のご様子も気にかけて聞くように努めている。小規模多機能居宅介護施設をご利用していただき、継続してケアをさせていただいているケースも有る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを尊重し、日々の生活の支援に努めている。100の気づきシートの活用で、ご本人への支援を心掛けている。	利用者、家族から生活歴や今までの暮らしの習慣を聴き取り、理解したうえで、利用者の会話や仕草から思いや意向を把握するよう取り組んでいる。把握した内容は指定の記録用紙に記し、職員に共有している。	利用者の思いや意向の把握は「その人らしい」個別のケアプラン作成の貴重なヒントである。今一度職員の話合いを行ない、意向の把握の意義と記録方法について意識の統一を望みたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴など聞き取りをし、その人らしく生活して頂けるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察しバイタルチェック等を行い、把握するよう努めている。又、趣味や本人のしたい事を大切にゆったりした生活の支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、カンファレンスを開催し、利用者ができる事出来そうな事、支援する事を意識して、サービス提供が出来るように話し合っている。又、改善が必要状況の変化があったときは、その都度NS、リーダーを含めたカンファレンスを実施している。	毎月、職員の話合いを行ない、3ヶ月ごとにケアプランを見直している。ケアプランの見直しの際は利用者、家族の意見を必ず確認して作成している。利用者の重度化もあり、身体的支援のプランが目立つ。	利用者の「その人らしい」暮らしの継続には意向や思いを反映した個別プランの作成が求められる。意向を反映したプラン作成に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のモニタリングを行い、ケアプラン評価表を記入し、スタッフ全員、統一意識で支援できるよう、見直し等に生かしている。又、各書式の見直しをしより統一のしやすい使える色区の作成へとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の身体状態やご家族の状況に応じて、ご本人サイドで臨機応変に対応し、自由で、その人らしく、あたりまえの生活をして頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物、美容院、喫茶店など行くなどし、楽しみの支援に努めている。又、地域ボランティアの方による、傾聴支援や近隣の大正琴の先生や生徒さんとの交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様のかかりつけ医の受診はもちろんのこと、月に2回、連携している、医師の往診を受けている。 時には、ご家族と直接お話をさせていただき、今後の方針を立てることも増えてきた。	ホームの協力医は月2回の往診を実施している。豊富な看護経験を有する看護職員は、予めファックスを利用して協力医に利用者の情報を伝え、往診に立会い連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に3日、看護師が勤務しており、ご利用者の体調管理や薬の管理をしながら、指導等を適宜もっている。又、体調不良者が出たときは、急遽出勤をして頂いたり、一時的に点滴が必要であった場合にも対応してもらっている。又、研修時の講師としても協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	病院の生活相談員と連携を取り、情報収集に努め、退院後の対応を十分に取れる様取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしない方針であるが、この度、「治療終了」であり、「終末期」であるとの情報提供書を当ホームと、当方の協力医に専門医からもらってみえたケースが有り、日常生活において、点滴も、酸素も必要とされず、日常生活を送りながら、その時を迎えるというケースが発生した。もちろん日常的医療処置が必要ではないため、ご家族、協力医と話し合い、当ホームで生活されてみえる。その他のケースも、個々のご家族と、話し合い出来るだけ、意向に添えるように努めている。	入居時に利用者、家族に看取りの指針を説明し、同意を求めている。利用者の重度化により医療の伴う場合は、必要に応じて医療関係者と家族を交えて話し合い、適切な施設の移動を支援している。職員は訓練を受け心肺蘇生など緊急時に備えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習等に、全員参加することや、マニュアル等を使い訓練している。 当ホームも5年目を迎え、救急搬送する機会は、さくら通りより回数が多かったが、本当に初期段階で気付き、救急搬送ができたため、命に関わるものはなかった。気付きの力と、さくら通りの経験をムダにしないように日々意識している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練等に近隣地域の方に声かけをし、一緒に参加して頂き、ご協力とご理解を得ている。	マニュアルに沿って年2回の訓練を実施している。訓練には近隣の住人や運営推進会議の地域のメンバーも参加し、夜間想定、避難誘導、消火訓練を実施している。職員は別に消防署の救命講習に参加し有事に備えている。	訓練に地域が参加している。更に地域と相互に協力する体制を明確にし、有事に備えるよう一考願いたい。また、飲料水の備蓄に加え食料の備蓄を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心や、羞恥心に配慮した声かけを常に心掛け、月毎にユニットごとにスローガンをかけ、実践している。	職員は利用者を尊び、丁寧な中にも打ち解けて気さくに接している。呼称は苗字か下の名前に「さん」を付け、利用者のその人らしさを尊重している。入浴やトイレの支援は利用者のプライドを考えて視線をずらし、歌や会話を取入れながら和めるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	以前にやられていた事、得意な事など、100の気づきシートを元に、支援出来ることを見つけ、ご本人サイドで働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のご様子や発言に耳を傾け、ご利用者サイドで楽しんで頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、自分でスカーフや髪留め等、おしゃれしてリビングに出てこられたる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者から、進んでお手伝いをして下さり、談笑しながら、出来る事を無理なく、楽しく参加して頂いている。	昼、夜は食材配達業者を利用している。調理や朝食の買出しなど、利用者を主役にできることは利用者が行ない、自立の機会としている。飲込みの難しい利用者も直ぐにきざみにせず、普通食を目で楽しみつつ様子を見て対処している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月2回の体重測定や、毎回、排泄表などチェックする事で、その方の身体状況に応じた対応に努めている。一時的であれば、NSが点滴の対応もしている。が、現在食事が極端に減ってしまったご利用者さまがみえるが、食事形態や、味付けを変えたり、Dr.、NS、薬剤師、と連携し、栄養の摂取方法を検討中。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る所まで、自己にて実施されるように見守り、個別に、見守りや確認をしている。又、口腔内の洗浄液なども使用し、毎食後の口腔ケアの徹底している。必要に応じ訪問歯科に入っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツで過ごせる事を基本に、オムツフッターの有資格者を中心にして、それぞれにあった物を提案し、排泄パターンの把握から、声かけを行い促している。	職員の記録した排泄チェック表を参考に、支援の方法を会議に諮り、快適な排泄に取り組んでいる。能力の低下から布パンツをリハビリパンツに替える場合も、ギリギリまで利用者のトイレ誘導に努め十分に話し合いのうえで決めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療のアドバイスを元に、朝、タカスピ海ヨーグルトや、センナ茶、カフェオレ、キナコ牛乳等の提供を毎日、時間を決め行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間入浴や、お友達と一緒の入浴等、本人のきぼうに添えるように支援している。	2日おきの入浴を支援している。利用者がくつろげるよう全員の湯船の入浴に努めている。入浴時間は午前中としているが、希望のある場合は夕刻の入浴にも柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室にて自由に休息したり昼寝したりされておられ、又、時には足浴機の活用で気持ち良く眠れるように支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により、服薬の資料が配布されており、フロアーやスタッフルーム等常時確認ができ、服薬時には、ダブルチェックを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、あみもの、カラオケ、台所や洗濯等のお手伝い、テーブルに飾る花瓶に挿す花摘みの散歩など、楽しくやって頂く事で気分転換となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、外食、カラオケ、など、気分転換となる、外出行事を提供している。 又、お盆などお墓参りは欠かせない予定のため、ご家族がご協力して下さる方もみえる。	同法人の隣接事業所の行事、編み物、大正琴の教室に出かけ、参加者である地域住人や利用者同士の交流を楽しんでいる。買い物、喫茶店、外食、毎年実施の家族参加のテーマパーク遠足と、多くの外出を実施して利用者の潤いの時を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外への買い物や、喫茶店などへ、定期的 に計画し、ポシェットにお金を入れて、ご自分 でお支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙 のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら、電話を使用したり、手紙を書 いたり、時には、声かけで促したり、お手伝 いさせて頂いて、ご希望に沿った支援を行っ ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴 室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をま ねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がな いように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居 心地よく過ごせるような工夫をしている	居室とホール、又、カフェテラスを作り、団 欒できる、スペースづくりをしているので、自 由にその人が自己に合わせた、生活を自ら 楽しんで頂くことができる。	対面式のキッチンで、職員は調理をしてい てもリビングの利用者の見守りが可能である。 利用者、職員が仲良く料理を作り、屋外の広 い中庭でおこなうランチパーティーや行事は、 利用者とともに家族、地域住民の参加する 社交の場である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利 用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工 夫をしている	リビングのソファに仲良しで一緒に座っ たり、カフェテラスにて、日向ぼっこをしなが ら、談笑してみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談 しながら、使い慣れたものや好みのものを活か して、本人が居心地よく過ごせるような工夫をして いる	ご本人が愛用されていた家具等を使い、ご 要望に添い、安全面と介護面から見たアド バイスにてレイアウトし、穏やかな生活が出 来るように工夫している。	居室の入り口は表札代わりに居室ごとに利 用者の書道作品を掲示している。利用者は 家族の写真、家具、椅子、机、テレビ、化粧 水、鏡、位牌と希望の品を自由に持ち込み、 居心地の良い居室としている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかるこ と」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活 が送れるように工夫している	手すりの位置や、段差の解消を図り、自立 した生活ができるように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191100094		
法人名	有限会社 望仙樓		
事業所名	グループホーム さくらの杜 【さくら通り】		
所在地	岐阜県多治見市上町4丁目46の7		
自己評価作成日	平成26年10月15日	評価結果市町村受理日	平成27年 3月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action=kouhou_detail_2014_022_kani=true&JkyosyoCd=2191100094-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 中部社会福祉第三者評価センター		
所在地	岐阜県関市市市平賀大知洞566-1		
訪問調査日	平成26年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が、落ち着いて生活が行けるよう、一日の中で何か満足感が感じただけよう、ご利用者お一人お一人の「その人らしく」を支援していけるケアの充実に努めることができました。又、地域密着施設であることを意識し、近隣の高齢者や住民の方に、親しみをもって頂ける施設を目指し、お茶のみ所や、趣味の発表の場、交流の場、相談できる場として、気軽にお立ち寄りいただき、気楽にお過ごしいただける様に努めています。また、隣接した小規模多機能型居宅介護施設のご利用者とも交流を持つことで、在宅で生活されてみえる方の生活や、情報をご自分たちの事のように楽しんで見えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念や、運営方針を作り、毎朝唱和し、スタッフ全員で共有し意識の定着を図り、実践につながるよう努力を続けている。毎月フロア毎に目標を作り、こちらも運営理念・方針とともに毎朝唱和し、月の終わりには評価し、翌月の目標の作成につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ出来る範囲で、ご利用者と参加をし、又ホームで行う行事への、ご参加の声かけを行い、多くの方にホームへ足を運んで頂く機会と、地域の方と接する場を設ける努力をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームのイベント行事に地域の方に参加して頂き、ご利用者へのかかわり方や対応の方法等、実際に見て頂くことで、認知症を理解して頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催が、一時空いてしまったが、現在は、地域の方のご協力で再び再開している。ただ今年は、ご利用者さまの体調の変化がいちじるしい年であったため、防災訓練が前回のように行われていない、そのため、11月は秋の火災予防の月のため、この月に夜間想定防災訓練を昨年のように行う予定。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から連絡を取っており、認知症でお困りになっている方等の相談支援をしながら、協力関係を築いている。 去年度から市の主催で、地域密着型サービスの事業所意見交換会が実施されている。そこへの参加。と、今年は、多治見市地域包括センター運営協議会委員及び多治見市地域密着型サービス運営委員会委員をさせていただくことになったため、幅広い見識者の方の意見をうかがう機会が増えた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内が、回廊として活動できる環境があり、利用者は自由に散歩や、徘徊ができるので、特に玄関の施錠なく、生活して頂ける。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	資料等にいつでも目を通せるように、スタッフルームに準備してある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の学習会に参加させていただく		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、ご家族の心配や悩み、不安等の対応に心掛けて、理解を得るように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族交流会の開催や面会時に、お話をさせて頂いたり、玄関に意見箱を設置しご意見を聞かせて頂ける環境を整えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、ユニット会議や全体会にて、意見交換を行い、又、カンファレンス開催時の意見等にも留意している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	今年は、サンクスカードの徹底、ユニット対抗への評価の徹底が難しいとあった、形だけの評価は、達成の重要度が薄れ、一部の式の低下につながってしまった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ユニットリーダーに、指示権限と責任を持たせ、リーダーとしての学習会を行い、その他の職員には、ホーム内外での研修や講習の場に参加する機会を設け学習し、介護の質を高めるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	多治見市社会福祉協議会主催のたじみネットワーク会議の参加や、多治見市高齢福祉課主催の地域密着型サービス会議に参加させていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	100の気づきシートから、その方の全てに気づくことで、ご本人の不安や訴えに耳を傾け、寄り添うことで、安心できる環境関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前に面談を行い、アセスメントを取り、困っていることや要望などお聞きするようにし、コミュニケーションを図り、入居直後は、日中の様子や睡眠時間等をご家族にお電話し、安心して頂くように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人の状態、生活歴、病歴を中心にしっかりとアセスメントし、初期の支援内容に生かすようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者が出来ることを引き出し、見極め、共同生活の場として、一緒に活動をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も一緒に支え合う一員、仲間として、協力し合いながら、日々の支援を行っている。毎月のお便りでご本人のご様子をお伝えし、常に一緒に支えて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔ながらのご友人が訪ねてきたり、市民文化祭に参加したり、寄合などあれば出来る限り、ご参加して頂けるようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	洗濯、掃除、調理など、日々の活動の中や、レクをとおして、関係性を把握し、協力し合いながら、良好なコミュニケーションが図れる様支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	元気になるれ退居された方も、ホーム行事に足を運んで頂き、参加して頂く等、関係性を継続している。又その後のご様子も気にかけて聞くように努めている。小規模多機能居宅介護施設をご利用していただき、継続してケアをさせていただいているケースも有る。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いを尊重し、日々の生活の支援に努めている。100の気づきシートの活用で、ご本人への支援を心掛けている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族から生活歴など聞き取りをし、その人らしく生活して頂けるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察しバイタルチェック等をし、把握するよう努めている。又、趣味や本人のしたい事を大切にゆったりした生活の支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1度、カンファレンスを開催し、利用者ができる事出来そうな事、支援する事を意識して、サービス提供が出来るように話し合っている。又、改善が必要状況の変化があったときは、その都度NS、リーダーを含めたカンファレンスを実施している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のモニタリングを行い、ケアプラン評価表を記入し、スタッフ全員、統一意識で支援できるよう、見直し等に生かしている。又、各書式の見直しをより統一のしやすい使える色区の作成へとつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の身体状態やご家族の状況に応じて、ご本人サイドで臨機応変に対応し、自由で、その人らしく、あたりまえの生活をして頂けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所のスーパーに買い物、美容院、喫茶店など行くなどし、楽しみの支援に努めている。又、地域ボランティアの方による、傾聴支援や近隣の大正琴の先生や生徒さんとの交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人様のかかりつけ医の受診はもちろんのこと、月に2回、連携している、医師の往診を受けている。 時には、ご家族と直接お話をさせていただき、今後の方針を立てることも増えてきた。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に3日、看護師が勤務しており、ご利用者の体調管理や薬の管理をしながら、指導等を適宜もらっている。又、体調不良者が出たときは、急遽出勤をして頂いたり、一時的に点滴が必要であった場合にも対応してもらっている。又、研修時の講師としても協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の生活相談員と連携を取り、情報収集に努め、退院後の対応を十分に取れる様取り組んでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りはしない方針であるが、この度、「治療終了」であり、「終末期」であるとの情報提供書を当ホームと、当方の協力医に専門医からもらってみえたケースがあり、日常生活において、点滴も、酸素も必要とされず、日常生活を送りながら、その時を迎えるというケースが発生した。もちろん日常的医療処置が必要ではないため、ご家族、協力医と話し合い、当ホームで生活されてみる。その他のケースも、個々のご家族と、話し合い出来るだけ、意向に添えるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急講習等に、全員参加することや、マニュアル等を使い訓練している。 当ホームも5年目を迎え、救急搬送する機会が増え、中には、心停止をされたが、心肺蘇生法を行い、一時的に呼吸が戻り、救急搬送していただき、ご家族が病院についてから、息を引き取られるケースもあった。非常に残念な結果にはなってしまったが、これも、日頃から真剣に取り組んできた結果であったと思う。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練等に近隣地域の方に声かけをし、一緒に参加して頂き、ご協力とご理解をを得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自尊心や、羞恥心に配慮した声かけを常に心掛け、月毎にユニットごとにスローガンをかけ、実践している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	以前にやられていた事、得意な事など、100の気づきシートを元に、支援出来ることを見つけ、ご本人サイドで働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者のご様子や発言に耳を傾け、ご利用者サイドで楽しんで頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、自分でスカーフや髪留め等、おしゃれしてリビングに出てこられたり、入浴後や洗面後に化粧水や、乳液にておしゃれをせれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者から、進んでお手伝いをして下さり、談笑しながら、出来る事を無理なく、楽しく参加して頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月2回の体重測定や、毎回、排泄表となどチェックする事で、その方の身体状況に応じた対応に努めている。一時的であれば、NSが点滴の対応もしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る所まで、自己にて実施されるように見守り、個別に、見守りや確認をしている。又、口腔内の洗浄液なども使用し、毎食後の口腔ケアの徹底している。必要に応じ訪問歯科に入っていたいいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	布パンツで過ごせる事を基本に、オムツフイターの有資格者を中心にして、それぞれにあった物を提案し、排泄パターンの把握から、声かけを行い促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	医療のアドバイスを元に、朝、タカスピ海ヨーグルトや、センナ茶、カフェオレ、キナコ牛乳等の提供を毎日、時間を決め行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	夜間入浴や、お友達と一緒に入浴等、本人のきぼうに添えるように支援している。が、どうしても、入って戴けない方は、ご家族にご協力いただき、ご家族で銭湯などに行っていたこともある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の居室にて自由に休息したり昼寝したりされておられ、又、時には足浴機の活用で気持ち良く眠れるように支援も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により、服薬の資料が配布されており、フロアーやスタッフルーム等常時確認ができ、服薬時には、ダブルチェックを徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	居室の掃除、あみもの、カラオケ、台所や洗濯等のお手伝い、テーブルに飾る花瓶に挿す花摘みの散歩など、楽しくやって頂く事で気分転換となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や、外食、カラオケ、など、気分転換となる、外出行事を提供している。 又、お盆などお墓参りは欠かせない予定のため、ご家族にご協力いただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外への買い物や、喫茶店などへ、定期的に計画し、ポシェットにお金を入れて、ご自分でお支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人自ら、電話を使用したり、手紙を書いたり、時には、声かけで促したり、お手伝いさせて頂いて、ご希望に沿った支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室とホール、又、カフェテラスを作り、団欒できる、スペースづくりをしているので、自由にその人が自己に合わせた、生活を自ら楽しんで頂くことができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファーに仲良しで一緒に座ったり、カフェテラスにて、日向ぼっこをしながら、談笑してみえる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が愛用されていた家具等を使い、ご要望に添い、安全面と介護面から見たアドバイスにてレイアウトし、穏やかな生活が出来るように工夫している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの位置や、段差の解消を図り、自立した生活ができるように配慮している。		